

令和２年度 京都市民健康づくり推進会議 口腔保健部会 摘録

<開催日時>

令和３年２月３日（水）午後３時～午後４時３０分

<開催場所・形式>

京都市役所分庁舎 ４階 第４会議室

出席者については、原則、オンライン（ＺＯＯＭ）形式で参加

<出席者>

資料１，２のとおり

<摘 録>

１ 開会の挨拶 事務局（北川健康長寿のまち・京都推進室長）

２ 出席者紹介等 事務局

３ 部会長挨拶 部会長

４ 議 事 進行 部会長

（１）京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」に基づく取組について

報 告 事務局

資料３（１．京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」に基づく取組について），別紙①に沿って説明

意見交換等 ○機関・団体等 ●事務局

○ （一社）京都府歯科医師会

本年度は、コロナ禍の影響を受け、イベントなどの普及活動が難しい状況であった。また、集団健診での実施が多い乳幼児健診についても、国の方針も受けて、本会が実施に協力している京都市では一時休止をせざるを得ない時期もあった。乳幼児健診は、その月齢・年齢に応じて発育状況などを見極めるための重要な機会であり、一時休止により受診時期が遅れることによる懸念もあり、慎重な検討の結果、必要な感染防止対策のうえ再開に至った。

一方、歯科医院の現場では、当初、飛沫感染リスクのある歯科受診は危険ではないかという報道がされたこともあり、一時期は受診が激減した。歯科というのは、そもそも常に唾液やその飛沫への接触が避けられない領域であり、新型コロナに限らず、これまでから、いわゆるスタンダードプリコーション（標準感染予防策）を当然として対応している。

今後、２０２５年問題、そして２０４０年問題に直面する。多くの高齢者の方を、少ない現役の若い方達で支えていくという形が進むため、支えられる高齢者も健康でいるということが重要である。２０１７年の政府の骨太の方針にもあるように、口腔の健康は全身の健康にも繋

がっている。口腔を健康に保ち、フレイルやいわゆるオーラルフレイルをできるだけ予防して、要介護状態にならないようにしていくということが大事であるということを啓発・発信していかねばならない。

○ 京都市PTA連絡協議会

コロナ禍で子どもが家に居る時間が長くなり、家で食べる回数が増えている。日中の歯みがきの声かけなどを意識して行ったり、食べることや口腔というのも健康に非常に密着していると感じることが増えた。

○ (一社)京都市老人クラブ連合会

このコロナ禍の中で、そもそも集まるということ自体が難しく、口腔に限らず、なかなかこれまでのように健康づくりの活動を行えていないが、リーフレットの配布などを通じて、オーラルフレイルなどの啓発にも努めていきたい。

○ 京都市立中学校長会

学校再開後、給食の際に生徒から「やっぱり皆と一緒に食べられる食事が楽しい」という声があった。また、休校期間中は自宅で食事をする機会が増え、料理に挑戦する生徒もいれば、昼まで寝て朝食は食べない生活を送っている生徒もいた。このコロナ禍のなか、中学生も食べるということに対して意識を向けている。食べるということを大切にするという意識付けとなる良い機会としていきたい。

○ (公社)京都府看護協会

看護協会会員は、様々な場所で活動しているが、近年は、病院では高齢者や入院患者に対して、また、訪問看護ステーションでは、在宅高齢者に対して、口腔内状況のチェックや口腔ケアについて取り組んでいる。このコロナ禍においても、訪問看護ステーションで行っている「安心在宅療養相談」では、口腔の相談があれば、全身状態との関係も踏まえて対応している。また、「まちの保健室」は、各地域で高齢者の集まりの場を訪問し健康相談を行っているもので、全身チェックとあわせて、口腔の相談にも対応することがある。

○ (一社)京都府薬剤師会

薬剤師会では、様々なイベントで、病院や薬局の薬剤師によるお薬相談を行っている。今年度は、イベント型のお薬相談はまったくできていないが、京都府薬剤師会で常設している薬事情報センターでは、毎日のように府民市民の方からのお薬相談に対応している。

また、糖尿病重症化予防に関しては、府内で約1,000の調剤薬局の店頭において、フライヤーやデジタルサイネージなどを用いた無関心層への受診勧奨などに取り組んでいる。今後は、薬局から医師や歯科医師につないでいけるような受診勧奨ができるような取組もしていきたい。

○ 部会長・学識経験者

日本糖尿病学会は、ガイドラインで糖尿病患者は歯周治療を強く勧める（推奨グレードA）としており、糖尿病治療における歯周治療の重要性も認知されている。薬剤師会にもなお一層の歯科連携をお願いしたい。

(2) 京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」の今後の予定について

報 告 事務局

資料3 (2. 京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」の今後の予定について), 別紙②, 別紙③に沿って説明

意見交換等 ○機関・団体等 ●事務局

○ 部会長・学識経験者

国の計画が1年延長されるということだが, この1年はどういった期間なのか。

● 事務局

国の新しいプランが令和5年度当初に示される予定であり, 延長される令和5年度の1年間は, 国の新しいプランを踏まえて, 令和6年度以降の都道府県等の次期計画を策定する期間となる。

○ (一社) 京都府歯科医師会

当初の計画期間のとおり, 新しい京都市の計画を策定したとしても, 後から出た国の方向性を反映することができない。それならば, 京都市の計画も国の方針にあわせて, 1年間延長し, 国の方向性や新たな口腔保健のキーワードなどを確認してから, 新しい計画を策定することが望ましい。

○ (公社) 京都府歯科衛生士会

このコロナ渦の中, 歯科衛生士会が関わる介護予防教室をはじめとする健康教室などは中止されるケースも多かったが, 現在では, 徹底した感染防止対策のうえ, 実施されてきている。

○ (一社) 京都府歯科技工士会

歯科技工士は, 患者の口の中の人工物を作るというのが業務であり, 直接患者と触れる機会が少ない。しかし, 会員からは, コロナの影響で総義歯の製作の依頼が非常に減っているという話を聞いている。これは, 総義歯を使われる主な方である高齢者が歯科受診をできていないことを指し示すのではないか。高齢者が歯科に限らず医科も受診しやすいような環境を作っていただくことが肝要と考える。

○ (公社) 京都府栄養士会

歯の健康は栄養管理にとっても大切と認識している。計画に掲載している数値のなかで経年把握できていない項目があるが, 計画を延長するなかでも, 少しでも状況を把握して29年度のデータと比較できるのが望ましい。特に, 「何でも噛んで食べることができる方の割合」については, 糖尿病重症化予防やオーラルフレイル予防など様々な点から大事なデータである。

○ 部会長

重要な御意見と考える。市としては, データをとることは可能か。

● 事務局

御意見を踏まえて, 可能かどうかも含めて検討させていただく。

○ 京都市保健所

現在, 保健所は新型コロナ対応の中心にいる。従来からの取組でも, イベントのような多数の人が集まる催しなどはできていないのが実情である。昨今提唱されているフレイルというのは, 健康な状態に戻ることができるという点で, これまでの疾患予防という考えとは異なる。

こういった対策が糖尿病重症化予防などにもつながっていくともいえる。コロナ禍のなかで、フレイル傾向が進んでいることが考えられる。その点からも、新型コロナの感染拡大傾向の出来る限り早い収束を目指して取り組んでまいりたい。

○ 部会長・学識経験者

部会としては、市の実施計画を1年延長することに異論ない。

● 事務局

様々な御意見・御助言をいただき、御礼申し上げる。この口腔保健部会のほか、食育推進部会や身体活動・運動部会等の関連部会、また年度末の京都市民健康づくり推進会議でも御意見をいただく予定である。それらを踏まえたうえで、今後の対応を検討し、決定してまいる。

(3) 令和3年度「健康づくりに関するアンケート」（歯と口の健康に関する意識調査）について

報 告 事務局

資料3（3. 令和3年度健康づくりに関するアンケートについて（案）、4. 令和3年度健康づくりに関するアンケートにおける「歯と口の健康に関する意識調査」について（案））、別紙④、別紙⑤に沿って説明

意見交換 ○機関・団体等 ●事務局

○ 部会長・学識経験者

このアンケートは、口腔分野だけでなく他の健康づくり分野と合わせて実施するということが。

● 事務局

御指摘のとおり。

○ 部会長・学識経験者

歯科単独よりも回答率は期待できるのではないかと。

○ （公社）京都府歯科衛生士会

このアンケートの回答率の目標値などはあるか。

● 事務局

具体的な検討はこれからになるが、例えば令和元年度のアンケート調査では、回収率が35.8%であり、少なくとも前回値を目標にすることになる。一方で、回答率を上げるため、今回はインターネットの活用などの工夫を行いたいと考えている。

○ （一社）京都府歯科医師会

「オーラルフレイルという言葉を知っていますか？」という質問も入るというのはよいと思う。この調査結果を踏まえて、新しい実施計画も策定されることになるので、オーラルフレイルに関する市民の認知度をしっかり把握し、目標を定めることが必要である。

(4) その他

○ （一社）京都府歯科医師会

日常診療をしているなかでの個人的な感触ではあるが、このコロナ禍でステイホームの時間

が長くなっているからか、中学生のむし歯が少し増えていると感じる。また、訪問看護ステーションを通じ、在宅患者の方の口腔ケアといった訪問診療の依頼が増えている。また、不要不急として歯科受診を控えるケースもあると聞くが、食べることは生活の必要不可欠な行為であり、健康を支えるものである。歯科医院では徹底した感染対策を実施しており、必要な行動として歯科受診をしていただきたい。

京都市で、歯科からの糖尿病重症化予防対策として行っている歯周疾患予防健診のクーポン券の配布について、市国保のデータから対象を抽出されているが、他の健康組合などからもデータ提供を受け、対象を広げることも検討していただきたい。

5 閉会の挨拶 事務局（中条保健担当部長）

以上、午後4時25分閉会